

# 世界共通教育の課題

## 課題 1：文化コードはどのようにできてきたのだろうか？

人間は、社会的動物です。動物の中には、生まれてすぐに自立するものもありますが、人間は、生まれたまま放置されると必ず死にます。人間は、自立歩行し、食物を自分で手に入れるまでの間、長い間、他人の世話にならなければ生きていけない動物なのです。

つまり、人間は、生まれてから長い時間を他人の助けを借りながら集団で生活することを余儀なくされています。集団生活においては、その構成員が快適に生活できるように様々なルールが必要です。

たとえば、皆でスポーツをしようと思えば、そのスポーツのルールに従ってプレイをしなければなりません。野球で塁を踏まずにホームインしても得点になりません。サッカーでキーパー以外の選手がボールを持って走ったら、反則ですし、それは、もはやサッカーではなく、ラグビーになってしまいます。

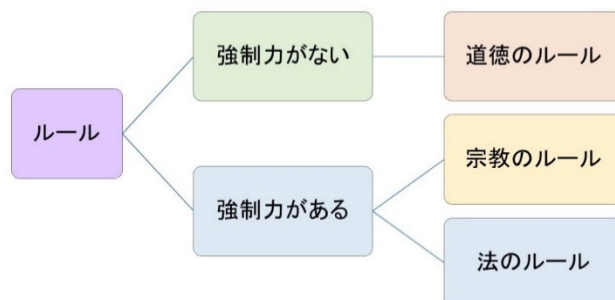
それと同じように、人間が集団で暮らそうと思うと、そこには、何らかのルールが必要です。生活に必要なルールには、二つの種類のルールがあります。

このような社会的なルールは、長い時間をかけて事前発生的にできたもの（例えば、慣習）、集団の中で尊敬される人の教え（例えば、儒教の教え）、神の啓示としてしめされたもの（例えば、宗教の戒律）として発生したもの、集団の集まりで決められたもの（法律）などさまざまです。

これらのルールは、強制されないものか、強制されるものかで二つに分かれています。

一つは、社会生活の行動の基準にはなるが、他人から強制されないルールです。これが道徳のルールです。

これに対して、社会生活の行動の基準となるものであって、強制力が生じるものです。この強制力を生じるルールには、以下の二つの種類があります。



第1のルールは、ルールの内容が信仰の対象となる神だけが決めることができ、ルールの内容を変更することができないルールです。これが宗教のルールです。

第2のルールは、ルールの内容を集団の構成員が一定の手続によって決めることができ、

構成員によってルールの内容を変更できるルールです。これが法のルールです。

## 2. リーガルコードのプラスの面とマイナスの面は？

リーガルコードは、集団の中で資格を持つ人々が集まって議論し、一定の手続を踏んで決定されたルールです。リーガルコードは、このように人間の集団によって適正な手続きに基づいて決定されたルールを尊重するコードですから、集団の決定を尊重する文化であるといえることができます。

また、リーガルコードは、その適用される範囲（例えば、国や州など）においては、強制力を持っており、それに従わない人を罰したり、損害賠償責任を負わせたりできるため、多くの人々がそれに従って行動します。そのような罰則や厳しい責任をあえてする人は少ないであろうという信頼が存在するため、リーガルコードを尊重する人々は、全くの赤の他人であっても、人間関係をうまく構築することができます。これがリーガルコードのプラス面です。

リーガルコードは国によって異なりますが、リーガルコードが異なる場合でも、たとえば、国際司法というメタ規範によって、異なる国同士のリーガルコードのうち、どのリーガルコードを適用するかが決定されるので、国際結婚で、どの国の法律が適用されるかどうかで不便が生じないように工夫されています。

リーガルコードは、その内容が「要件」と「効果」という形式（「もしも人を殺したら（要件）、死刑、または、無期懲役、もしくは、5年以下の懲役に処する（効果）」）で記述されることが多く、なぜそのようなコードがあるのかという理由は、立法資料では説明されることが多いのですが、コード自体には書かれていません。そのため、コードが適用される理由が不明だったり、その理由が納得のいかないものだったりということがよくあります。

この点、モラルコードは、心に訴えるような明確な理由が示されることが多く、納得できるものが多いのが特徴です。

## 3. モラルコードのプラス面とマイナス面は？

モラルコードは、長い時間をかけて人間によって築き上げられた慣習的な規律と尊敬される人の教えを信頼することによって成立したものです。

ある集団の尊敬すべき人間の教えや判断基準に対する信頼を原則とするコードですから、その集団の人々の信頼関係が強まり、その集団の構成員の自由な行動が促進されます。モラルコードは、人間の良心に訴えるコードであり、強制力を伴わないことが多いため、その分でも、人間の自由な行動が促進されます。これがモラルコードのプラス面です。

なお、キリスト教において、カトリック信徒は、キリスト教という宗教を信じる人々ですから、レジジャスコードの文化圏に属するようにも思われますが、カトリックの信徒は、ローマ教皇という尊敬すべき人間に人生の行動基準の判断を委ねているため、モラルコード

を尊重する人々として分類されています。

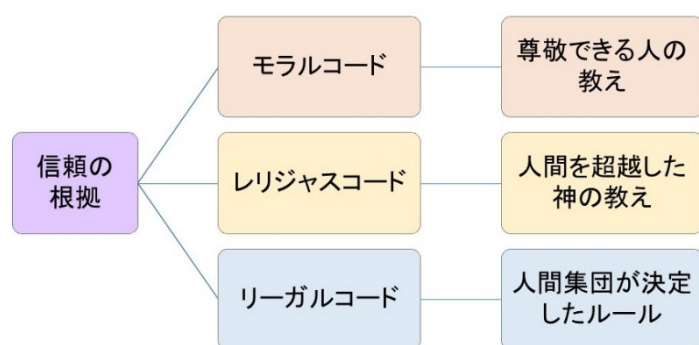
キリスト教でもプロテスタントは、人生の行動基準を聖書としており、聖書の解釈も牧師の助けを借りるとしても、最終判断は、信徒本人が行います。聖書の判断を自分自身で行うという点で、法律の解釈を自分自身ですることができるリーガルコードとの類似点が大いいため、プロテスタントは、リーガルコードを尊重する人々として分類されています。

モラルコードのマイナス面としては、人間への信頼が第一義的に尊重されますから、ある時代に適合しないという意味で間違った慣習や間違った教えがある場合には、人々が間違った行動に出ることがあります。

## 4. レリジャスコードのプラス面とマイナス面は？

レリジャスコードは、人間の能力を超えた存在への畏敬の念、尊敬の念から出発し、人間の能力を超えた、絶対的な善を示すことのできる神の存在を肯定し、その啓示である聖典に従って行動することを命じる文化コードです。

レリジャスコードに従う人々は、何が善で何が悪かを明確に判断し、善行を積むことを尊重する人々ですので、その中では、人々は、お互いの行動原理をよく知っており、したがって、初対面の人であっても、容易に信頼関係を構築することができます。これが、レリジャ



スコード文化のプラス面です。

しかし、宗教が異なる人との間では、そのような信頼関係を結ぶことが難しく、むしろお互いの信頼関係を結ぶことを妨げたりします。これが、レリジャスコード文化のマイナス面です。

## 5. リーガルコードの人々は、モラルコードやレリジャスコードの人々を本音レベルでどう思っているか？

モラルコードは、長い間をかけて作られた慣習や尊敬される人物の教えを信頼する文化です。したがって、時代の急激な変化には必ずしも対応できない面がありますし、そもそも、ある集団で尊敬される人が、他の集団で尊敬されるとは限りません。

レリジャスコードは、人間の能力を超える神を信頼する文化です。したがって、神の存在を信じない人にとっては、信頼の根拠がじゅうぶんではなくなってしまいます。

リーガルコードの人々は、個人を超える能力を神ではなく、集団における多様な意見に基

づく議論と適正な手続で決定されたルールに信頼を置く文化です。しかも、そのルールは、人を強制する力を持ち合わせているため、リーガルコードの人々は、モラルコードやレリジヤスコードの文化を尊重はしますが、最終的には、リーガルコードに従ってほしいと考えており、リーガルコードが、モラルコードやレリジヤスコードよりも優先して従われるコードであると考えています。

## 6. モラルコードの人々は、リーガルコードやレリジヤスコードの人びとを本音レベルでどう思っているか？

モラルコードは、長い間をかけて築き上げられた慣習とその集団で尊敬されている人の教えを信頼する文化です。

リーガルコードは、集団によって決定されるルールを信頼する文化ですが、その集団には、尊敬できない人々（死の商人などの悪徳商人、腐敗した政治屋、金に惑わされる愚かな人々）も含まれており、往々にして、モラルに反するようなルールが成立してしまうことがあります。

したがって、尊敬する人の教えを信頼するモラルコードの人々は、リーガルコードの人々をお金にたぶらかされて作られたルールを信頼する不純な人々だと疑っています。

## 7. レリジヤスコードの人々は、リーガルコードやモラルコードの人々を本音レベルでどう思っているか？

レリジヤスコードは、人間の能力を超えた絶対的な善としての神を信頼する文化です。

リーガルコードは、所詮は、神ならぬ凡人が作成したルールに過ぎず、必ずしも正しいとは限りません。

神の教えに反するリーガルコードは、レリジヤスコードの人々にとっては、神に劣る存在が作ったルールを神の作ったルールよりも優先させようとする不遜な人々だと疑っています。

## 8. 各コードが重視する、法律、人間関係、大きな力への畏敬の念は、対立するものでなく、ひとりの人間に必要な要

## 素だという考えをどう思うか？

リーガルコードは、個人の能力よりも優れた能力を発揮できる集団の作成したルールを信頼する文化であり、モラルコードは、集団の中で最も尊敬できる人を信頼する文化であり、レリジャスコードは、人間の能力を超越する神を信頼する文化です。

人間が社会的動物であり、社会生活を平和で快適に過ごすためには、ルールが必要であり、その前提となる集団に共通の信頼関係が必要です。

その信頼関係が、優れた個人に置くのか（モラルコード）、人間を超越した神に置くのか（レリジャスコード）、集団の決定に置くのか（リーガルコード）の違いに過ぎません。

人間の生活が広範囲に及ぶようになって、多様な文化がせめぎ合う社会においては、それぞれの信頼の根拠をお互いが理解し、共通の尊敬する人がいる場合には、その人判断を尊重し、共通の神を信じている場合には、神の教えに従い、そのような共通の信頼の基盤がない場合には、最も広い領域をカバーしている普遍的な法、国と国を超えて締結された条約、国の法律、地方の条例などのリーガルコードを尊重することが必要でしょう。

いずれにしても、人と人とが交流する場合には、それぞれの人が信頼関係に入ることが不可欠です。信頼関係に入るためには、それぞれに人が、何に信頼の根拠を置いているかを知ることが大切です。

世界の人々が信頼の根拠としている、3つのコードをよく理解することが必要な理由はその点にあるのです。